



★令和6年度 野生鳥獣に関する講習会

～野生イノシシに対する豚熱の発生予防対策について～

秋田県畜産振興課 家畜衛生チーム 李

★本日の内容

- 豚熱とアフリカ豚熱について
- 野生イノシシの豚熱発生状況について
- 野生イノシシの豚熱検査実施状況について
- 秋田県における野生イノシシの経口ワクチン対策
- 秋田県におけるその他の対策（リスクコミュニケーション）
- 秋田県における野生イノシシ対策の課題
- 岩手県洋野町養豚場における豚熱事例の県外派遣事例

★豚熱とアフリカ豚熱 ～家畜衛生上対策が必要な疾病～

豚熱

日本で発生あり(2018年～)
ワクチンによる対策

日本で発生なし
韓国・釜山港周囲で発見
ワクチンなし
発生時の早期封じ込め

アフリカ豚熱

両方とも家畜伝染病予防法の監視伝染病に指定
万一農場で発生した際には全頭殺処分
まん延防止のため野生イノシシ対策が必須

★豚熱とアフリカ豚熱

疾病	豚熱	アフリカ豚熱
原因	ウイルス	
感染	経口感染	経口感染
		(ダニによる媒介)
伝播力	＋ ＋	＋
致死率	＋	＋ ＋
臨床症状	高熱・食欲不振、元気消失など (見た目では判別不可能)	



★豚熱とアフリカ豚熱 ～農場における豚熱の発生～

○農場における豚熱の発生

2018年9月9日岐阜県で初発（26年ぶり）

2025年1月時点 **94事例 169農場・6関連施設・約40万頭**殺処分

2019年10月～飼養豚へのワクチン接種開始

現時点で46都府県がワクチン接種推奨地域指定

年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	Total
発生 件数	6	45	10	15	9	4	5	94

○ウイルスの拡散要因

①野生イノシシ・・・初発農場での発生直後、農場近辺で発見された死亡イノシシで豚熱陽性。以後農場での広がりや野生陽性イノシシの分布拡大は密接に関連

②人や車両等を介した伝播・・・元々中国由来のウイルスが日本に侵入
2020年沖縄、2022年山形etc

★豚熱とアフリカ豚熱 ～国の提唱する野生イノシシ対策～

■基本対策

（１）サーベイランスの実施

豚熱

アフリカ豚熱

- ・継続的に調査し、感染状況を正確に把握し、その情報を基に疾病の予防と管理をはかること
- ・感染状況の把握は、経口ワクチン・捕獲強化など野生いのししにおける豚熱対策の検討に必須
- ・飼養豚における対策に必須

（２）捕獲の強化

豚熱

アフリカ豚熱

- ・密度低下により、感染拡大を抑制
- ・感染野生いのししの絶対数抑制することで、農場への感染拡大リスクを低下

（３）経口ワクチン散布

豚熱

- ・免疫を獲得させることにより、感染地域内における抑制・感染地域拡大の抑制

（４）リスクコミュニケーション

豚熱

アフリカ豚熱

- ・狩猟関係者・市民に向けた対策の周知推進（マンガ・Web動画配信・トークイベント等）
- ・実地演習、講演・意見交換会等を通じた関係者間の理解の向上

★野生イノシシの豚熱発生状況について ～全国～

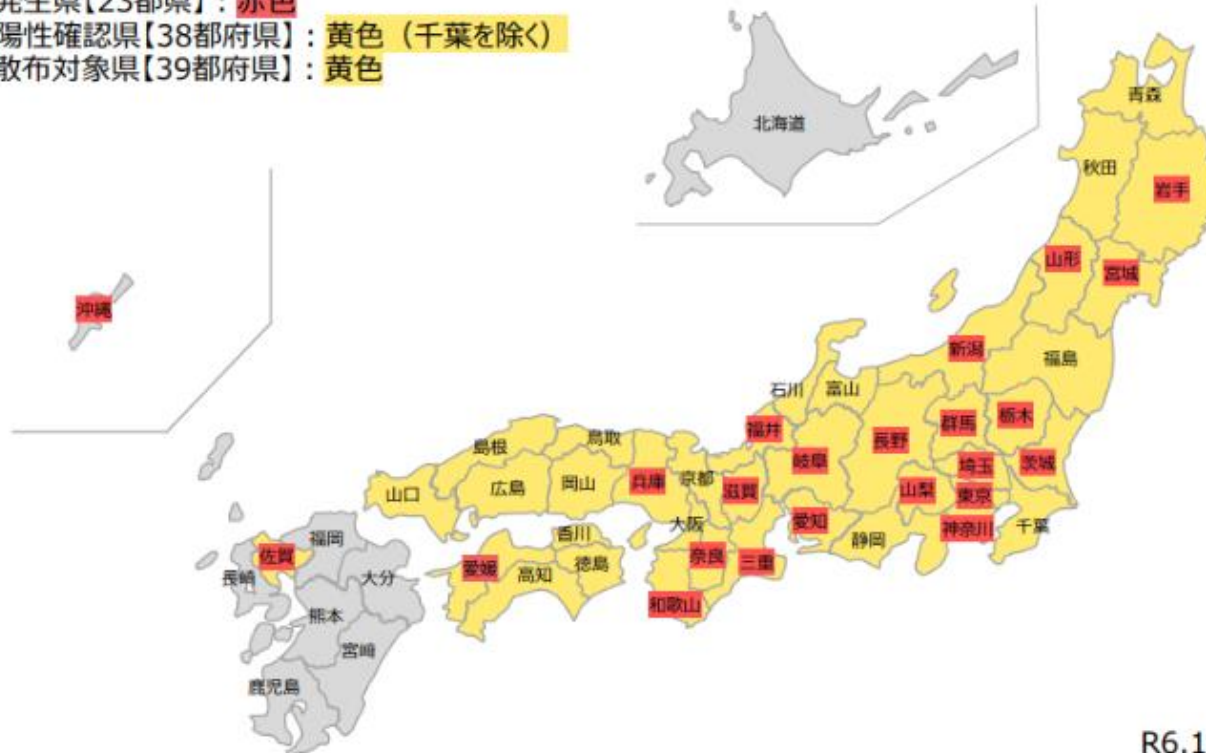
○野生イノシシにおける発生

2018年9月13日岐阜県で初確認（発生農場周辺）
2019年3月、岐阜県・愛知県で経口ワクチン散布開始
2024年6月、九州で経口ワクチン散布開始
38都府県で発生（2024年12月時点）

飼養豚豚熱発生県【23都県】：赤色

野生イノシシ陽性確認県【38都府県】：黄色（千葉を除く）

経口ワクチン散布対象県【39都府県】：黄色



R6.11.25 現在

★野生イノシシの豚熱検査状況について～全国サーベイランス状況～

※農水省とりまとめ

＜全国の野生イノシシ検査状況（H30.9～R6.12）

8,129/139,288(陽性数/検査数)

都府県	検査数	陽性頭数	都府県	検査数	陽性頭数	都府県	検査数	陽性頭数
青森県	108頭	8頭	石川県	2797頭	110頭	島根県	1799頭	151頭
岩手県	1971頭	215頭	福井県	2961頭	235頭	岡山県	1276頭	31頭
宮城県	1689頭	268頭	山梨県	1154頭	90頭	広島県	1101頭	57頭
秋田県	329頭	14頭	長野県	4693頭	341頭	山口県	1019頭	94頭
山形県	1413頭	185頭	岐阜県	15282頭	1681頭	徳島県	894頭	55頭
福島県	1205頭	127頭	静岡県	17522頭	619頭	香川県	1619頭	52頭
茨城県	5613頭	380頭	愛知県	6299頭	199頭	愛媛県	1503頭	4頭
栃木県	3282頭	167頭	三重県	19685頭	1025頭	高知県	956頭	56頭
群馬県	5888頭	348頭	滋賀県	3652頭	405頭	福岡県	1494頭	0頭
埼玉県	4192頭	190頭	京都府	802頭	122頭	佐賀県	1383頭	41頭
千葉県	2923頭	0頭	大阪府	250頭	20頭	長崎県	1486頭	0頭
東京都	554頭	25頭	兵庫県	2286頭	193頭	熊本県	1211頭	0頭
神奈川県	2394頭	108頭	奈良県	1122頭	56頭	大分県	1501頭	0頭
新潟県	1486頭	88頭	和歌山県	1901頭	147頭	宮崎県	1752頭	0頭
富山県	4002頭	161頭	鳥取県	1734頭	61頭	鹿児島県	1304頭	0頭
						沖縄県	731頭	0頭

2018年9月～ 139,288頭検査、うち陽性8,129頭

2024年5月～ 佐賀県で初確認

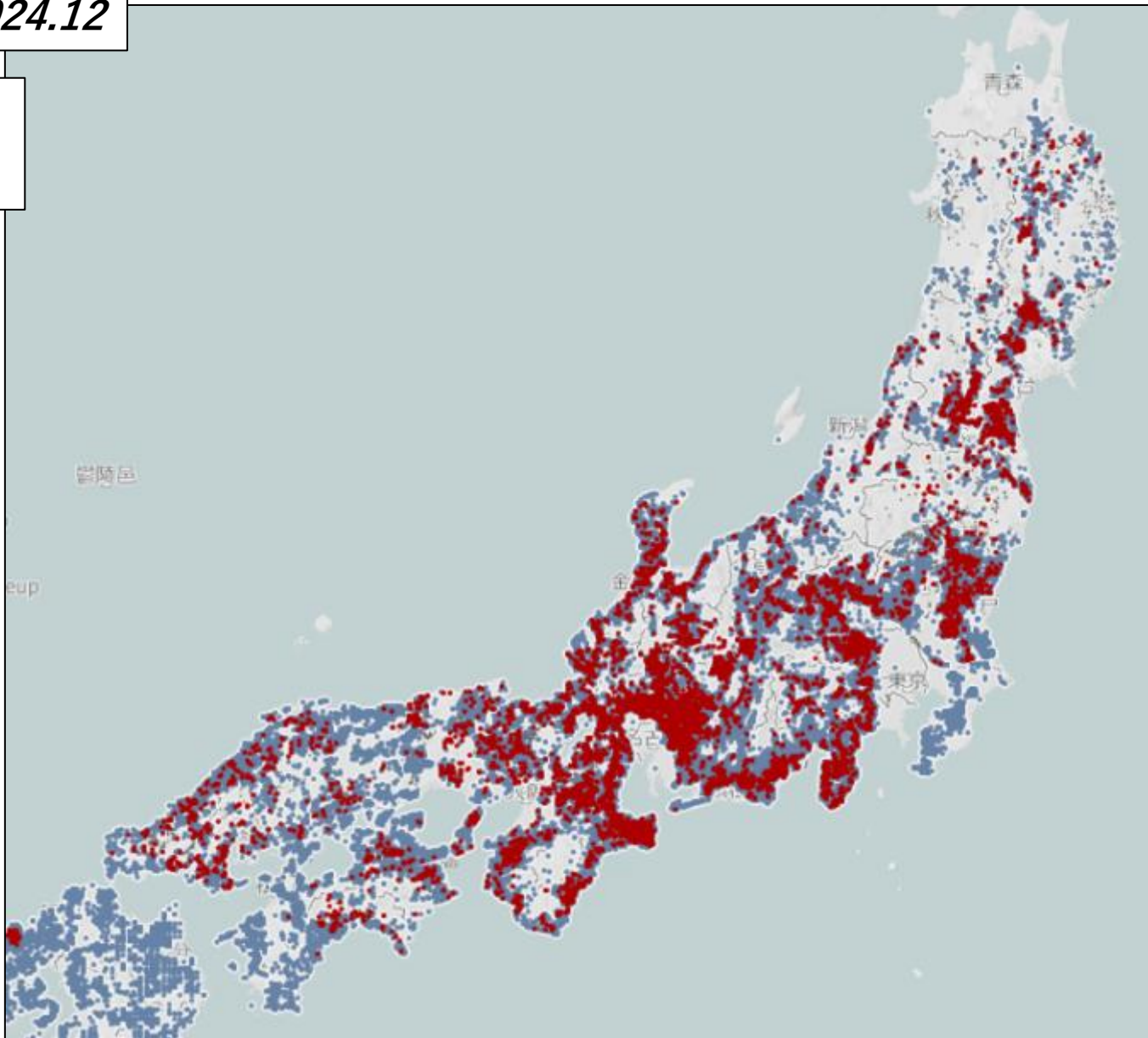
2024年8月～ 青森県で初確認

秋田県では2022年8月初確認(湯沢市)、現在まで14頭の陽性確認

★野生イノシシでの豚熱発生状況（農水HPより）

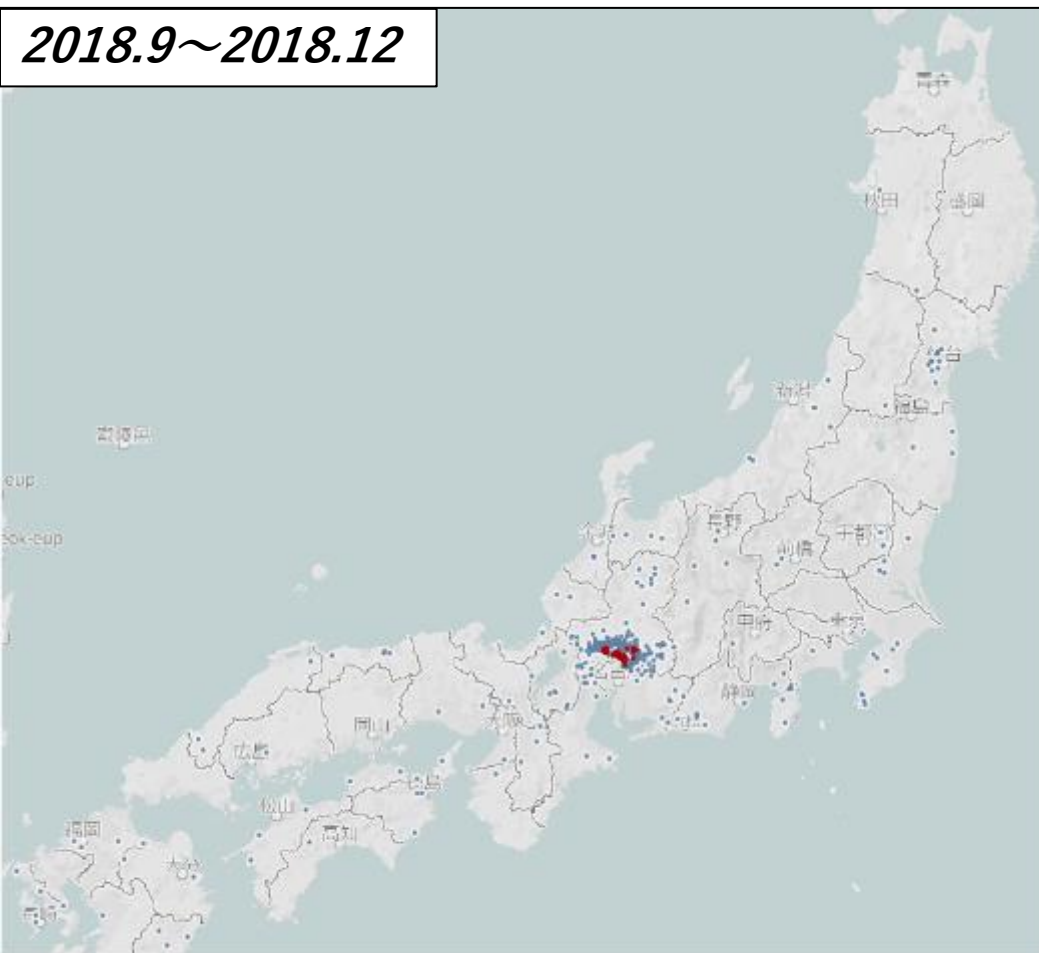
2018.9～2024.12

陽性 ●
陰性 ●
ワクチン □



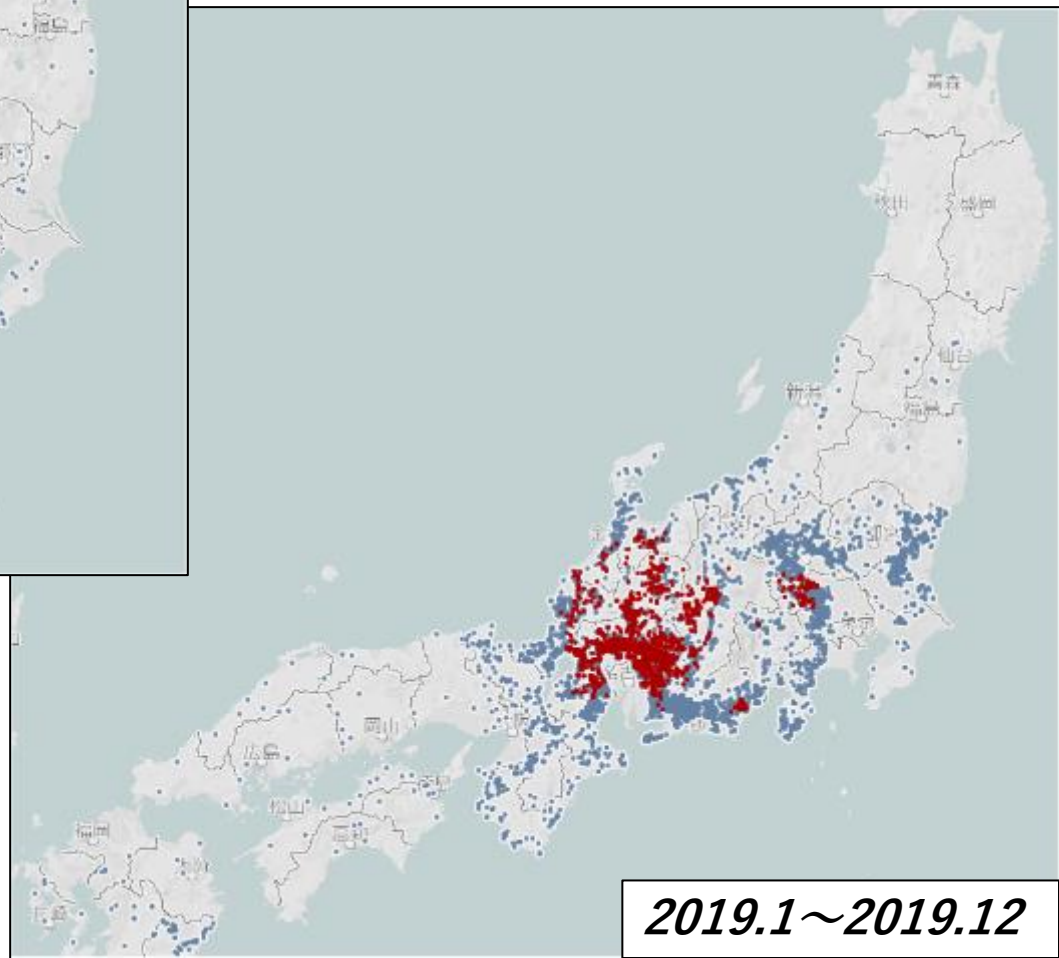
★野生イノシシでの豚熱発生状況（全国・年別）

2018.9～2018.12



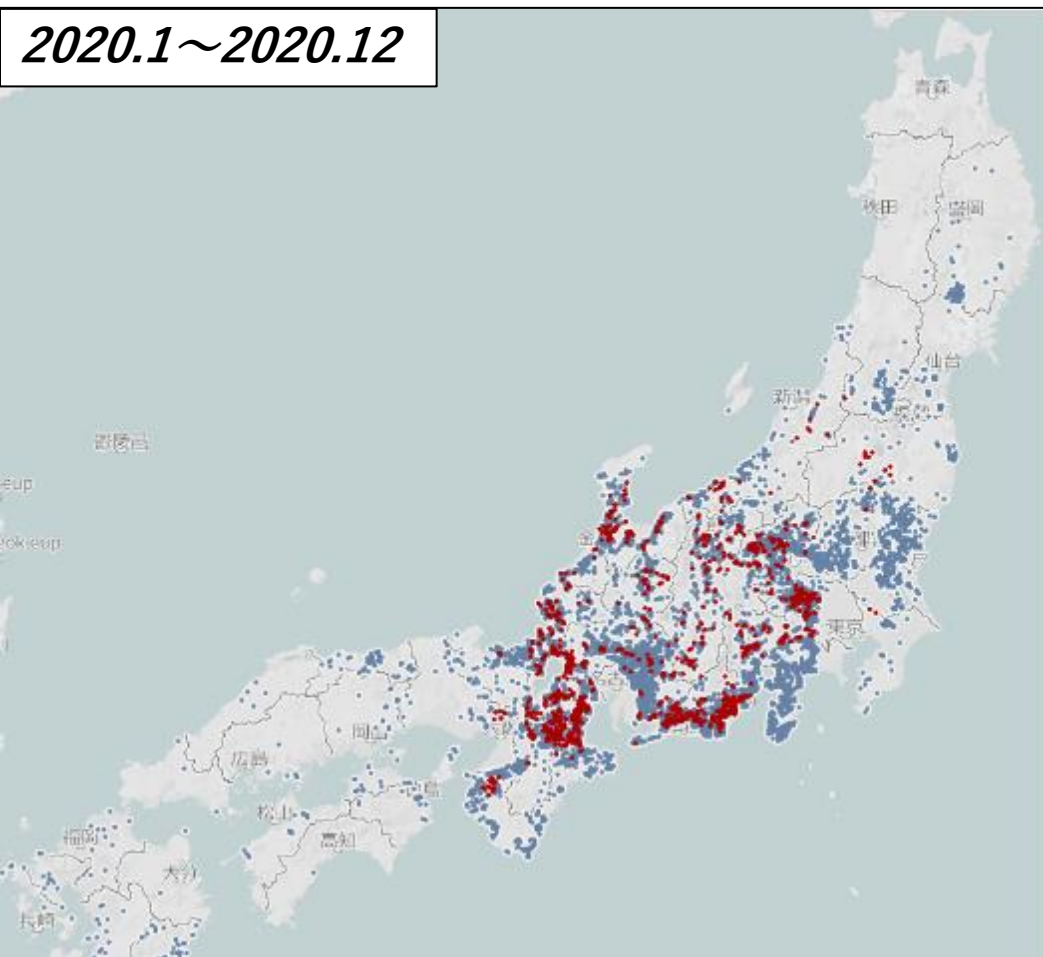
陽性 ●
陰性 ●

2019.1～2019.12



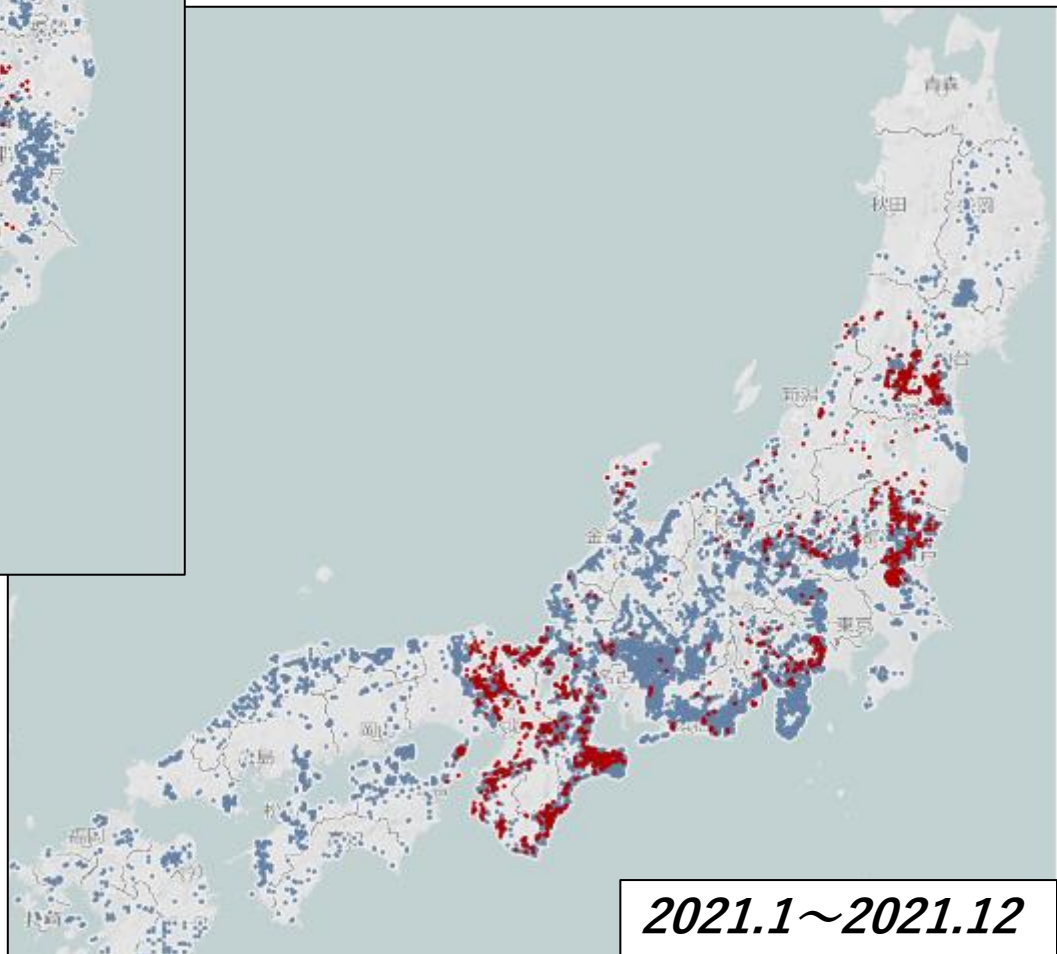
★野生イノシシでの豚熱発生状況（全国・年別）

2020.1~2020.12



陽性
陰性

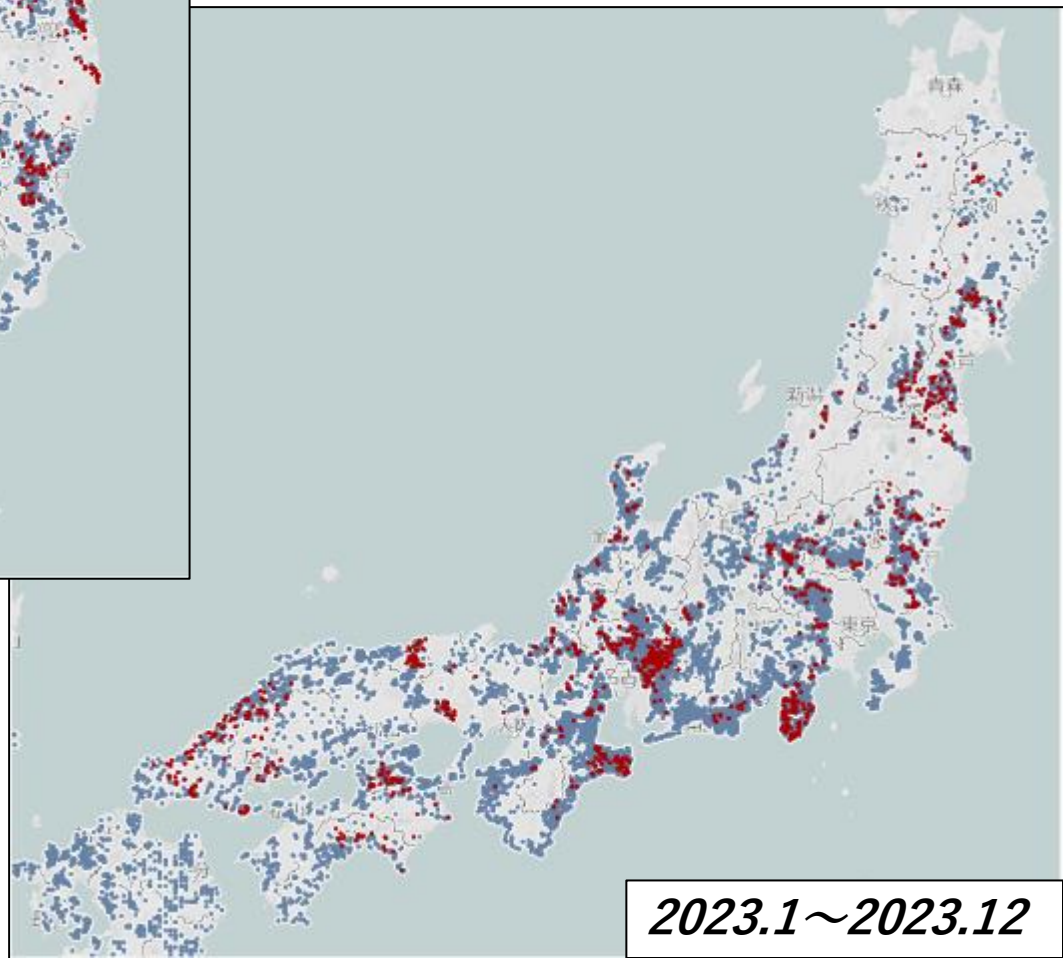
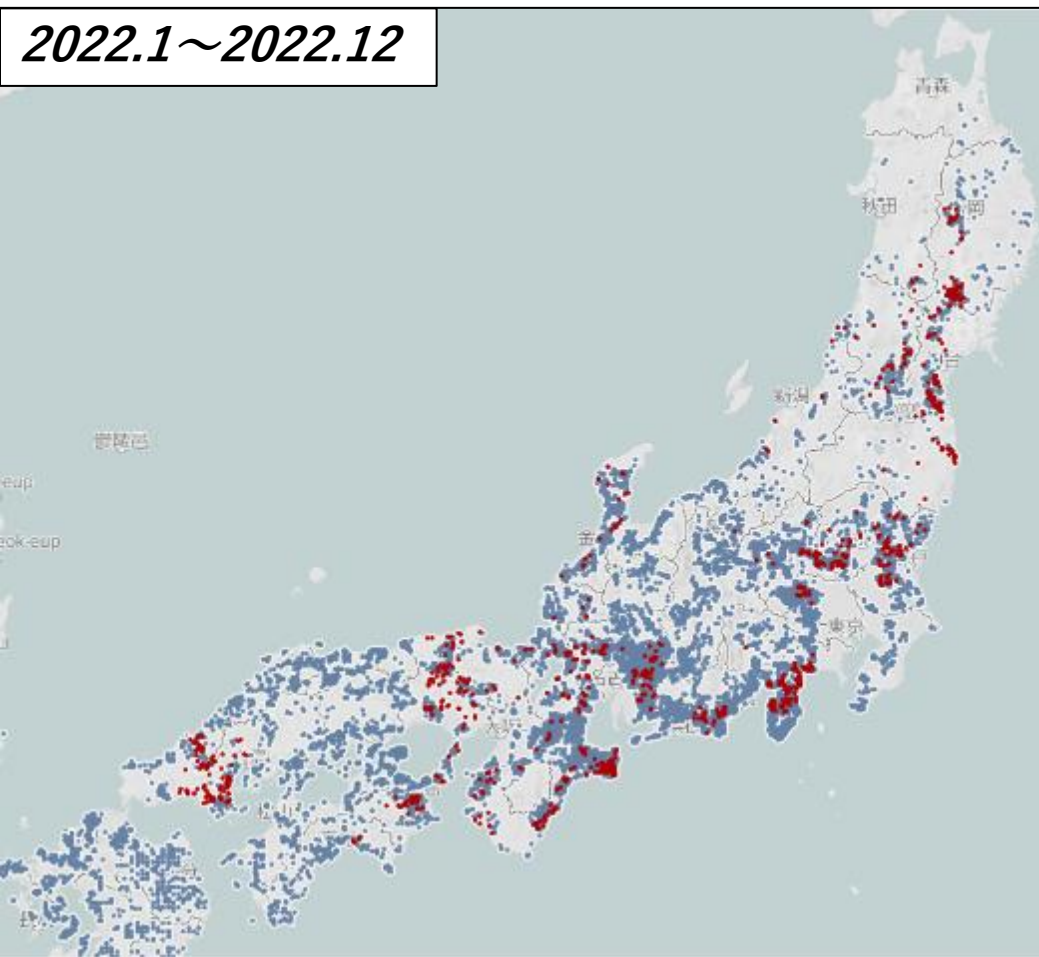
2021.1~2021.12



★野生イノシシでの豚熱発生状況（全国・年別）

2022.1~2022.12

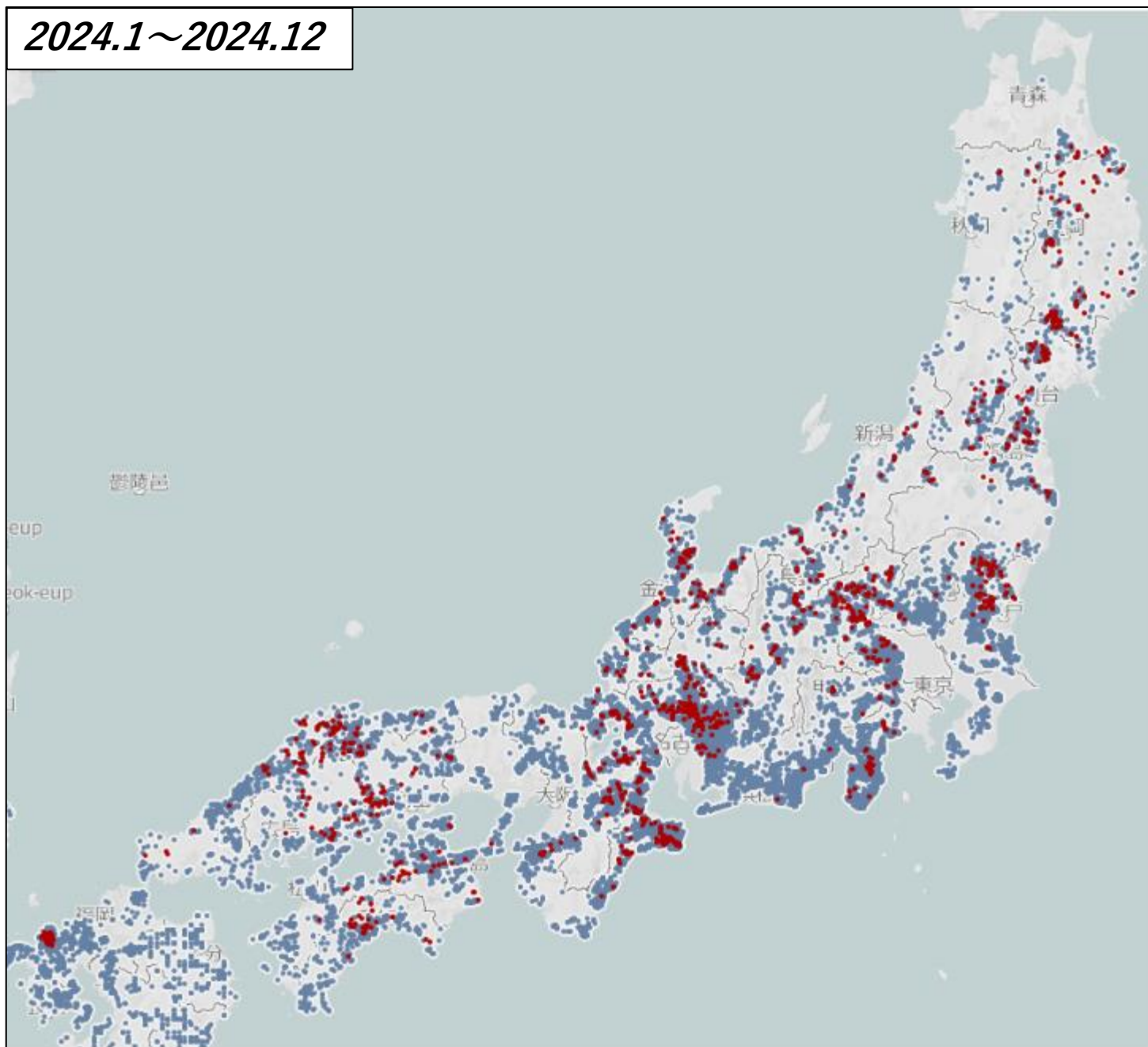
陽性 ●
陰性 ●



2023.1~2023.12

★野生イノシシでの豚熱発生状況（全国・年別）

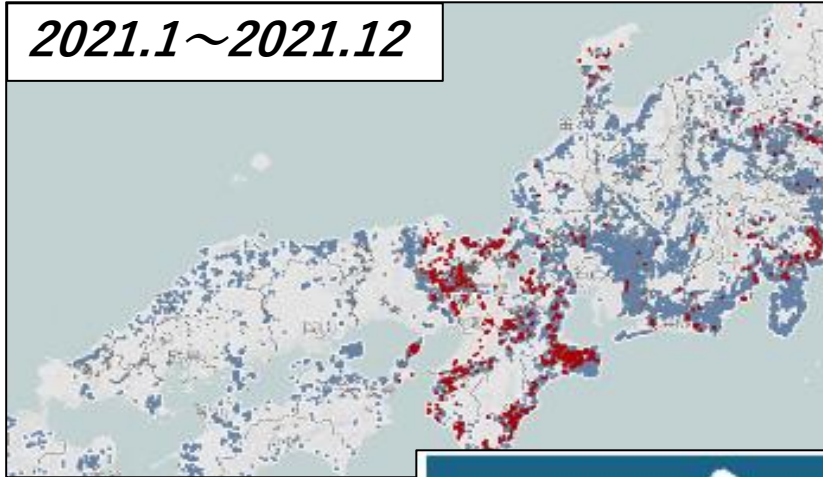
2024.1~2024.12



★野生イノシシでの豚熱発生状況（まとめ）

- ・2018年9月の初発以降、同心円状に陽性イノシシが拡散
- ・2024年には北は青森、南は佐賀県まで陽性確認
- ・野生イノシシだけでなく、人為的な要因も懸念

2021.1～2021.12



2022.1～2022.12

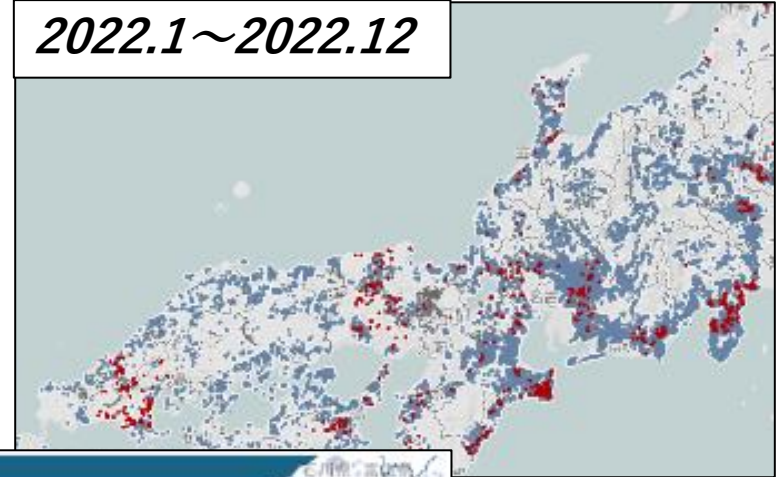
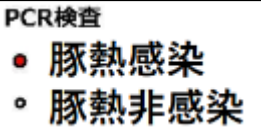


図 豚熱ウイルスの遺伝子情報が得られたイノシシ・農場の分布

○2024年12月まで1,342頭検査、うち41頭陽性



○2023年8月30、31日

佐賀県1例目、2例目の農場での豚熱が相次いで発生

○2024年5月30日

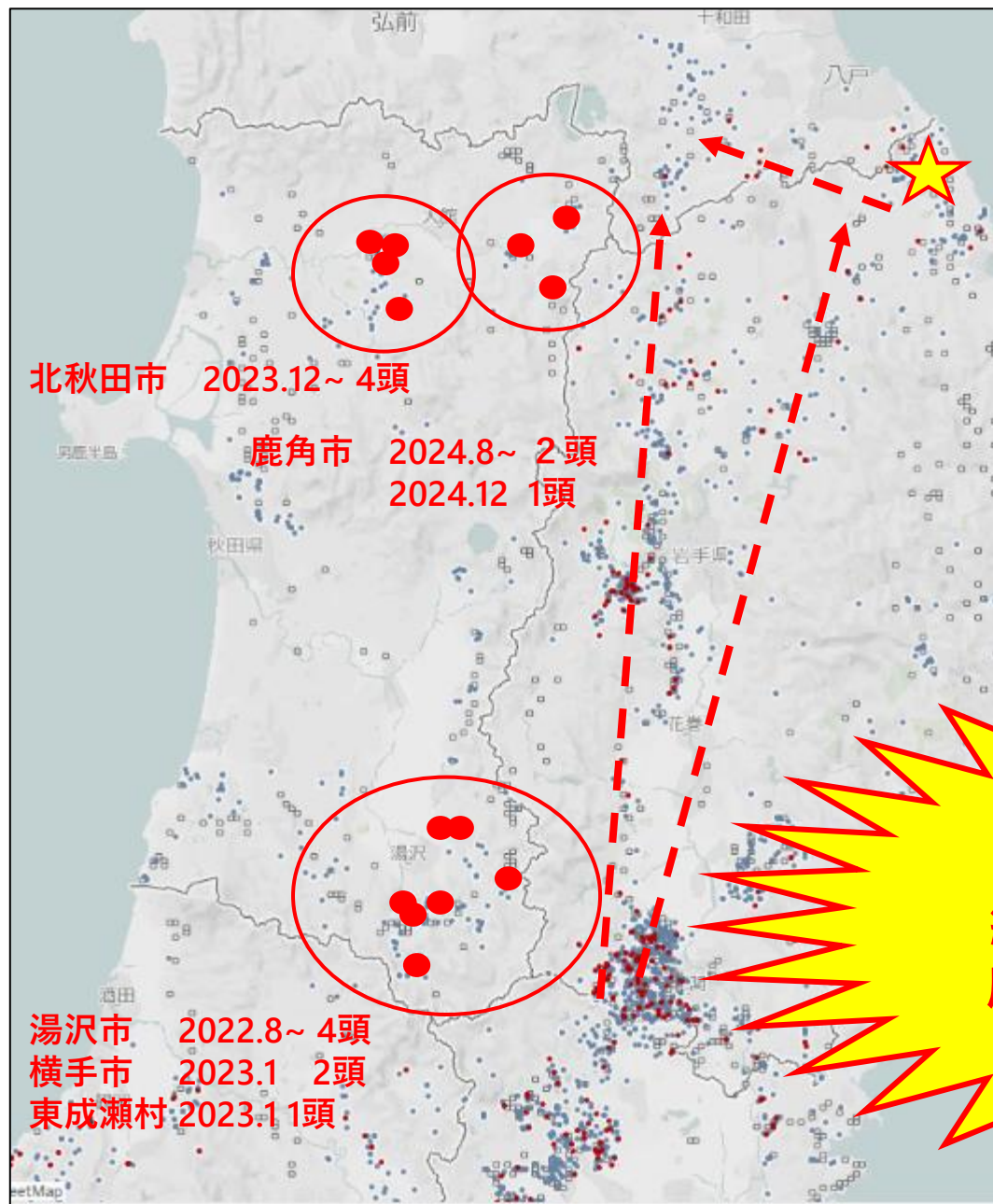
野生いのししで初の豚熱陽性確認

○6月・7月に緊急ワクチン散布、計3,200個散布

○現在感染拡大スピードは本州より低く抑えられており、初動対応の成果？

防疫措置後の汚染物品
や埋却地に感染性を保
持していたウイルスが
残存？

★豚熱発生状況（秋田県・東北）



○岩手県
2022.4 一関市で初確認
2024.4 洋野町で確認
2024.5 洋野町の養豚場で発生

○青森県
2024.8 階上町で初確認
2024.12 新郷村で8頭目を確認

○宮城、山形、福島
散発的に陽性が確認

秋田県豚飼養頭数
約30万頭のうち12万頭が
鹿角・小坂地域で飼養！

★秋田県の野生イノシシ検査状況（年別）

	H30		R2		R3		R4		R5		R6		合計	
	計		計		計		計		計		計		計	
	検査	陽性	検査	陽性	検査	陽性	検査	陽性	検査	陽性	検査	陽性	検査	陽性
鹿角市									7	0	9	3	16	3
小坂町									1	0	0	0	1	0
大館市									4	0	0	0	4	0
北秋田市							4	0	13	4	21	0	38	4
上小阿仁村									2	0	0	0	2	0
能代市							2	0	4	0	13	0	19	0
三種町							1	0	1	0	1	0	3	0
八峰町													2	0
秋田市							4	0	17	0	30	0	51	0
潟上市	1	0											1	0
井川町									1	0	0	0	1	0
由利本荘市			5	0	8	0	5	0	7	0	6	0	31	0
にかほ市					2	0	6	0	5	0	0	0	13	0
大仙市							3	0	0	0	1	0	4	0
仙北市							1	0	8	0	2	0	11	0
美郷町							3	0	0	0	2	0	5	0
横手市							7	2	8	0	2	0	17	2
湯沢市	1	0	30	0	28	0	17	4	10	0	13	0	99	4
羽後町					1	0	1	0	5	0	4	0	11	0
東成瀬村			5	0			1	1	9	0	0	0	15	1
計	2	0	40	0	39	0	55	7	102	4	104	3	344	14

畜産振興課では狩猟及び指定管理鳥獣捕獲事業で捕獲されたイノシシ血液を
1頭6,000円で買取し捕獲を推進(有害鳥獣捕獲以外、上限¥720,000)

★秋田県における野生イノシシの経口ワクチン散布

野生イノシシの豚熱経口ワクチン散布事業

	2022	2023	2024
実施市町村	10市町村	23市町村	23市町村
回数	2回	3回	3回
個数	2331個	8690個	10440個
地点数	77地点	137地点	174地点

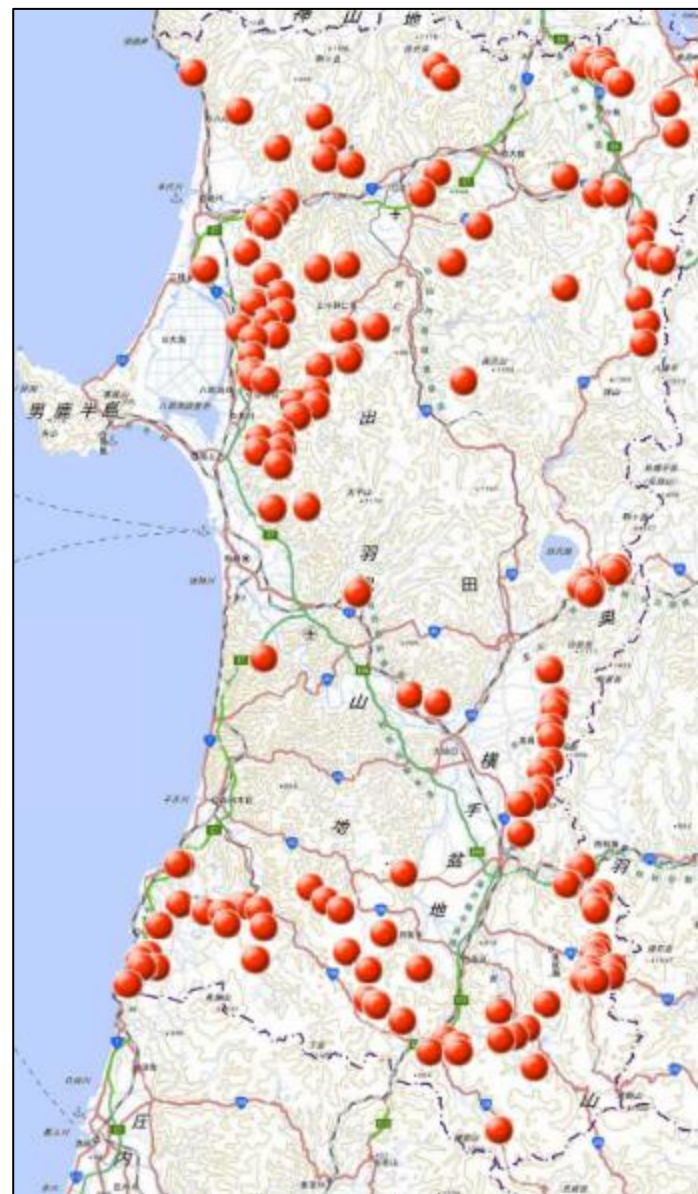


経口ワクチン



埋め戻し前(左)とイノシシ捕食後(右)のワクチン

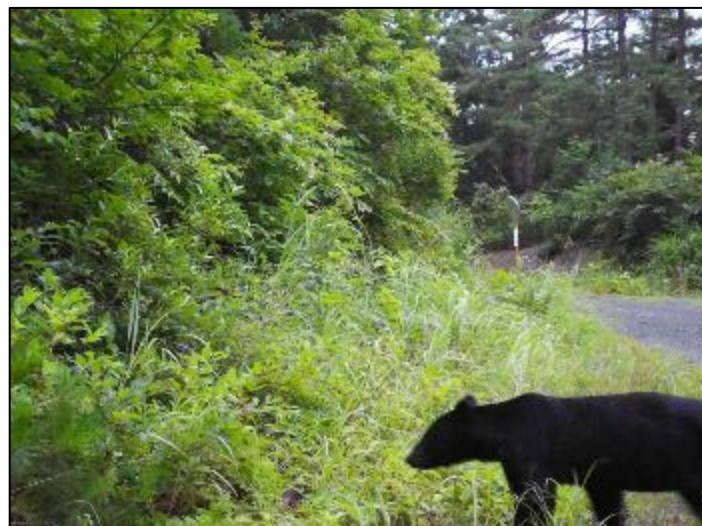
2024年ワクチン散布地点



★秋田県における野生イノシシの経口ワクチン散布

○経口ワクチン散布作業

秋田県はワクチン散布の作業については(株)ALSOK秋田に委託



★秋田県における野生イノシシの経口ワクチン散布

○2024.鹿角市散布地点の様子



イノシシによる掘り起こし跡やヌタ場が無数



クマにも注意！

★県内ワクチン散布地点におけるイノシシ



★秋田県におけるその他の野生イノシシ対策

～リスクコミュニケーション～

○陽性イノシシ確認市町村において狩猟者向け説明会を実施

(R6.9.10 鹿角市)

○県内郵便局90局に注意喚起ポスターを掲示

○県SNSでの注意喚起



秋田県庁 @pref_akita ・1日

【#アウトドアを楽しむ皆さんへお願い】

家畜の伝染病を無意識に運ばないように、ご協力をお願いします。

①野山では残飯を持ち帰りましょう

②靴の泥を山で落としましょう

③楽しんだ後は養豚場に近づかない

農林水産省maffchannel動画はこちら

YouTube



山林内に立ち入る皆様へ

～狩猟者、山林作業者、アウトドア愛好家の方々～

豚の感染症の拡散防止に
ご協力をお願いします。

野生いのししの間で、豚熱やアフリカ豚熱という病気が
広がる危険性が高まっています。人間への感染はありません
が、豚に感染して養豚業に大きな被害を与えます。
ウイルスを山林から持ち帰らないよう、ご協力をお願いします。



1

ウイルスは土にも含まれます。
靴の泥は山で落としましょう。



2

いのししを誘引しないよう
残飯は持ち帰りましょう。



3

家畜がいる施設に
近寄らないようにしましょう。



4

いのししの死体を見つけたら
管轄の自治体に連絡して下さい。



秋田県 農林水産部 畜産振興課
<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/13732>



★秋田県における野生イノシシ対策の課題

- サーベイランスの強化・・・県内狩猟者に対しさらに捕獲の強化を呼びかけ
- 経口ワクチンの散布法の改良・・・年々経験が蓄積し、ワクチン摂食痕の判定が熟練（歯形、足跡、掘り返し跡・・・）
誘因餌の変更（牛の配合飼料→圧ぺんとうもちし）
埋設する深さの再検討
今後も現場や現地狩猟者、他県の事例を参考に改良

ワクチン摂取判定のための参照資料

経口ワクチン摂食痕（イノシシ）



周囲のアルミ部分が激しく噛まれている 中の部分が激しく潰されている L字型の穴がある
(岐阜県提供)



ベしゃんこに潰されている(表) ベしゃんこに潰されている(裏)



ガミガミ歯形で噛んだと思われる細かい凹凸が多数ある(表) ガミガミ歯形で噛んだと思われる細かい凹凸が多数ある(裏)

(滋賀県提供)

経口ワクチン摂食痕（食肉目その他の動物）

特徴：尖った歯で噛んだと思われる細かい穴がある



(岐阜県提供)



(表) (裏) (表) (裏)



(表) (裏)

(滋賀県提供)

★秋田県における野生イノシシ対策の課題

○県SNSの更なる活用・・・Facebook、Instagramなど



山林に立ち入る皆さまへ
豚熱ウイルスの拡散防止にご協力をお願いします。

野生いのししの間で豚熱という病気が広がっています。
人間に感染することはありませんが、
豚に感染して養豚業に大きな被害を与えます。

ウイルスを山林から持ち帰らないよう、ご協力をお願いします。

県ガール
秋田県 環境部
環境政策課

- 1 ウイルスは土にも含まれます。靴の泥は山で落としましょう。
- 2 いのししを誘引しないよう飲食物は捨てずに持ち帰りましょう。
- 3 家畜がいる施設に近寄らないようにしましょう。
- 4 いのししの死体を見つけたら管轄の自治体に連絡して下さい。

狩猟者のみなさまへ ～豚熱対策のお願い～

- ・イノシシで豚熱（旧称：豚コレラ）が発生すると、その地域のイノシシ肉の利用が制限される可能性がありますがあるなど、**狩猟にも大きな影響**があります。
- ・イノシシで豚熱の感染がない地域では**清浄性維持**・「ある地域では**早期の清浄化**」のために！
- ・皆さん一人一人の、洗浄・消毒対応が重要です！！

ウイルスがいる場所

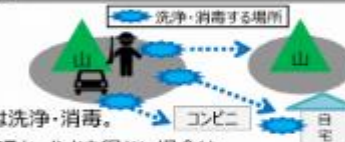
- 豚熱感染イノシシが確認された地域は特に注意が必要です。
- 感染したイノシシは糞便中などにウイルスを排出し、環境中（土壌、植物など）を汚染します。
- 環境中にウイルスがいる山に入ると、靴、車両のタイヤ、猟具等に付着して豚熱ウイルスを拡散させるおそれがあります。



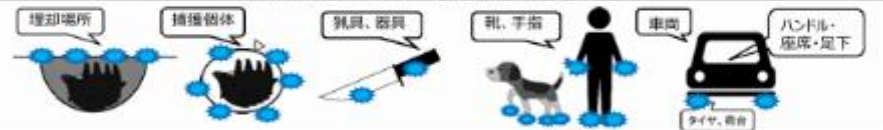
感染を広げないために必要な行動

いつ、何をすればいいの？

- 狩猟した後、大きく移動する際に「**洗浄**」・「**消毒**」を実施。
（具体的には、別の山へ移動するとき、山を降りるとき、移動途中でコンビニなどに立ち寄るときなど。）
- 自家消費用の解体時には、使い捨て手袋、衛生的な着衣（レインコート、防護服等）を使用。※レインコートは使い捨て又は洗浄・消毒。
- 解体後の内臓等は、**放置せず二重に袋につみ衛生的に処理する**か、やむを得ない場合は消毒等を適切に行い、公衆衛生の確保等に十分に配慮した上で適切に埋置する。
- 豚熱感染確認区域から、自家消費用を含む肉等を持ち出さない。
※「豚熱感染確認区域におけるジビエ利用の手引き」に従ってジビエ利用する場合は除く。
- 自宅に帰ってから特に念入りに「**洗浄**」・「**消毒**」を実施。次の猟場にウイルスを持ち込まない。



消毒のポイント（場所、ものなど）



洗浄・消毒の方法

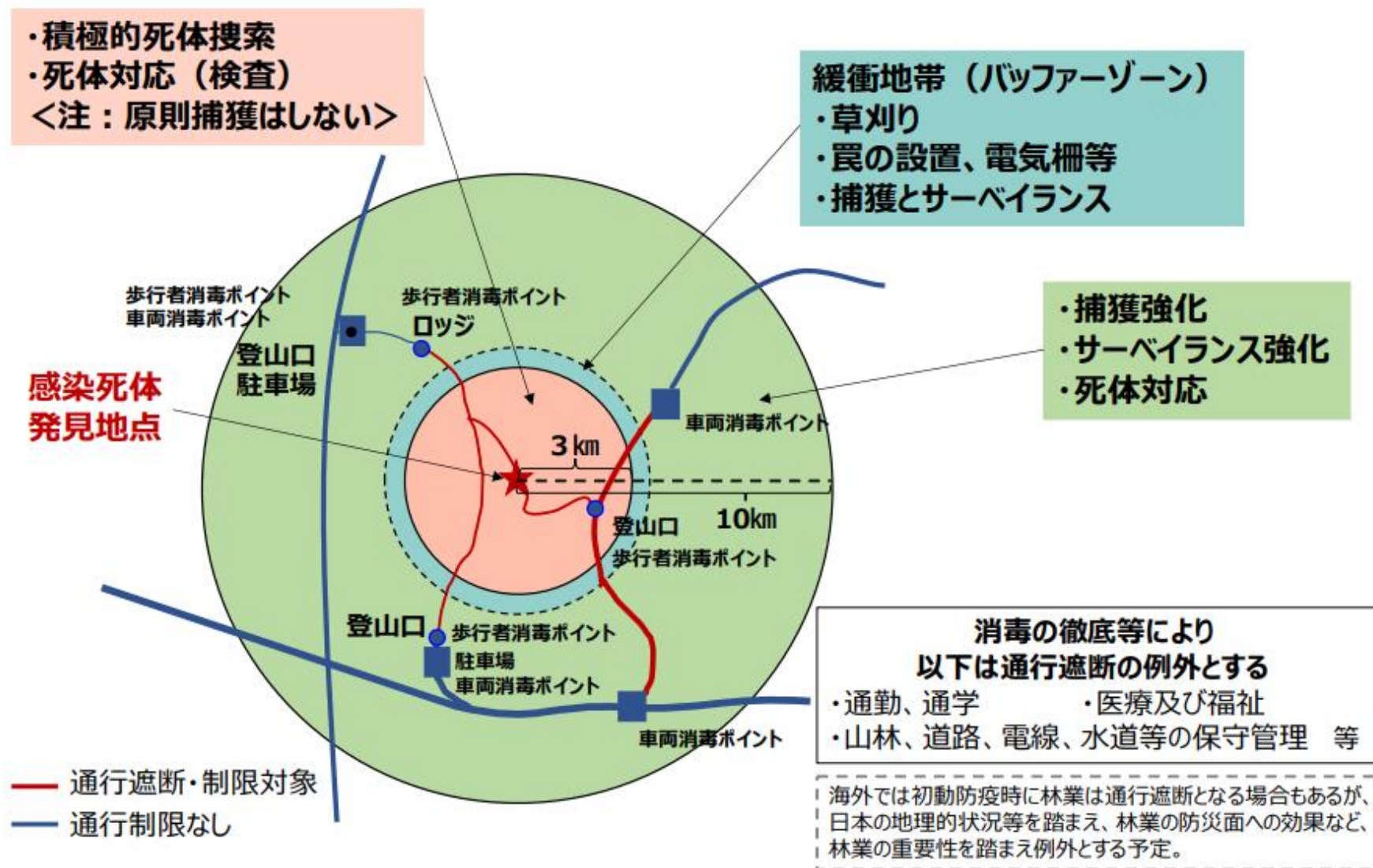
- **靴の裏、タイヤ周り**
→ブラシ・水などで土などの汚れを落とし、消毒する。
（ウイルスは肉や血液だけではなく、糞尿、唾液等が混じっている土などにも含まれている可能性があります。靴裏やタイヤの溝の土などをブラシ等を使いながら逆性石けん液などで洗い流し、確実に洗浄・消毒します。）
- **器具（ナイフなど）**
→ブラシ・水などで血液などの汚れを落とし、消毒する。
- **消毒方法**
→アルコールスプレーや逆性石けん液等を噴霧器、じょうろ等にかけて行います。
手指や衣服、猟具・ナイフなどで消毒薬のニオイや薬の残存が気になる場合はアルコールで。
※消毒薬は、薬局・ドラッグストア等で販売されています。



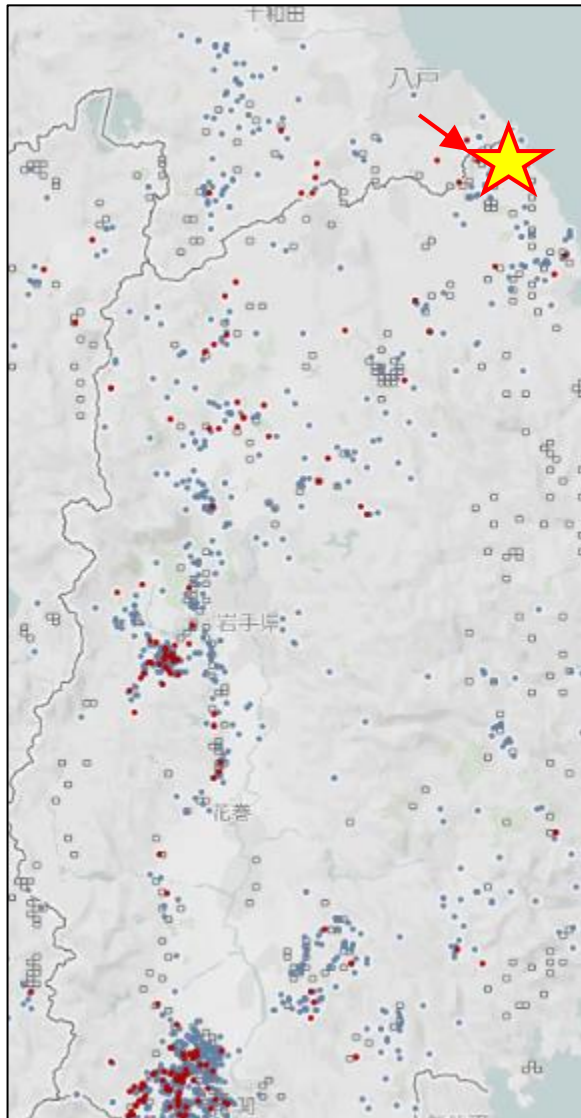
※事業等で、高リスクな場所を複数訪問する場合等での衛生対策は自治体担当部署の指示に従ってください。

★秋田県における野生イノシシ対策の課題

○アフリカ豚熱発生時の死体対応マニュアルの作成・・・令和6年11月、県担当各課との連絡会議を開催



●岩手県洋野町養豚場における豚熱事例の県外派遣事例



発生農場・・・岩手県洋野町 一貫経営
飼養頭数・・・約17,500頭

秋田県からの県外派遣獣医師・・・2名
防疫作業従事・・・5/29～6/1

八戸駅で集合→タクシーで集合施設(洋野町立大野体育館)

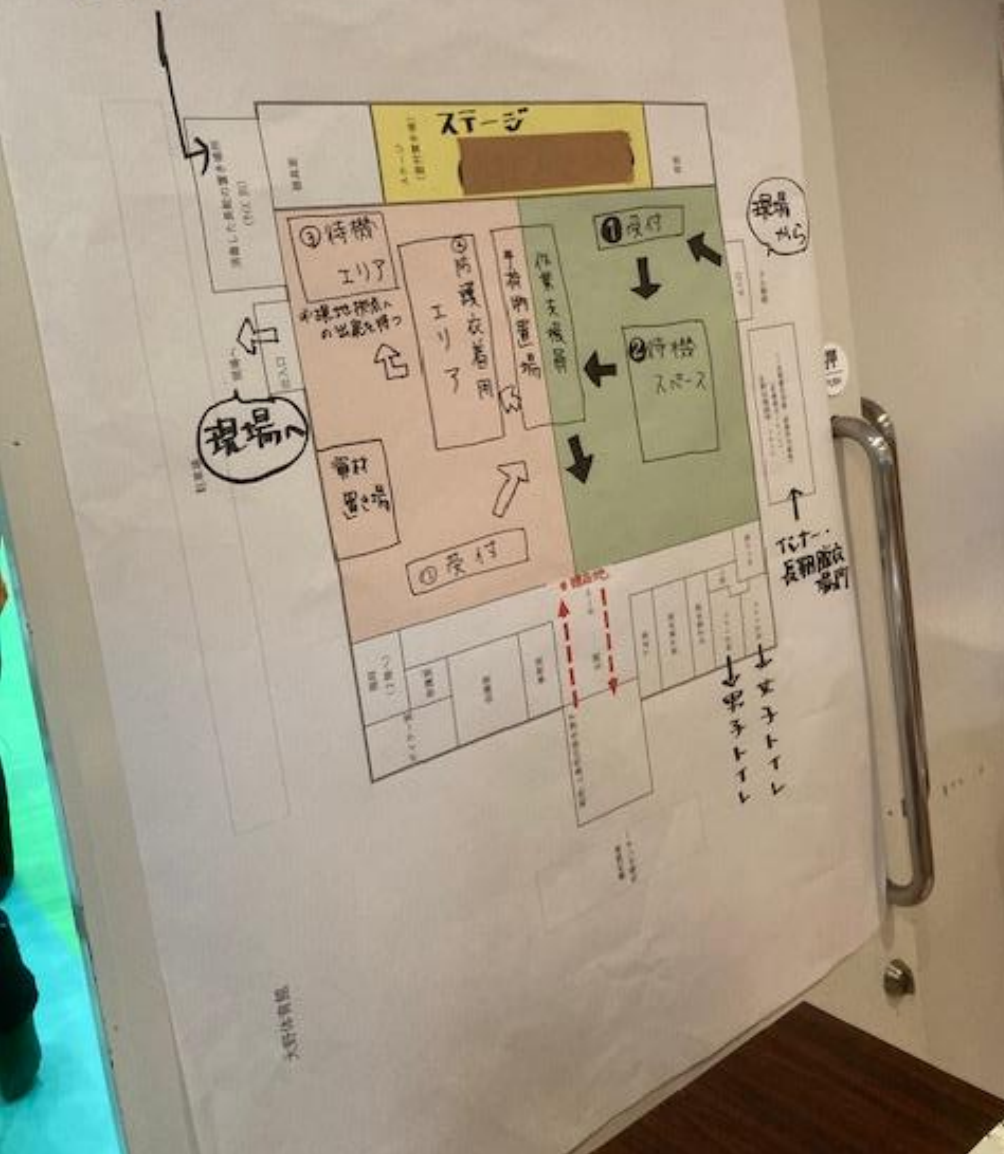


派遣獣医師のタイムフロー

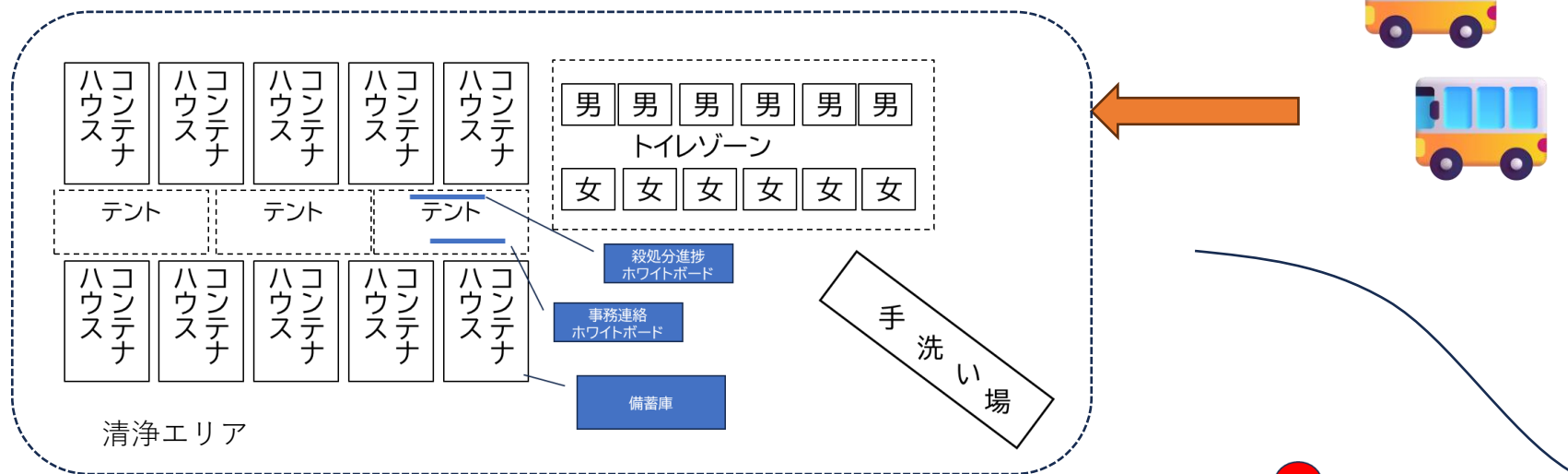
9:05	八戸駅出発（タクシー）
10:00	集合施設（大野体育館）着
10:10	集合施設発（バス：動員職員と同乗）
10:30	農場着
11:00	作業開始
	作業説明（1 時間程度）
	小休憩（30 分）あり
13:30	大休憩（1 時間30 分）
15:00	作業再開
18:30	作業終了
19:00	農場出発（バス：動員職員と同乗）
19:20	集合施設着
19:30	集合施設出発（タクシー）
20:30	八戸駅着（解散）

集合施設の様子

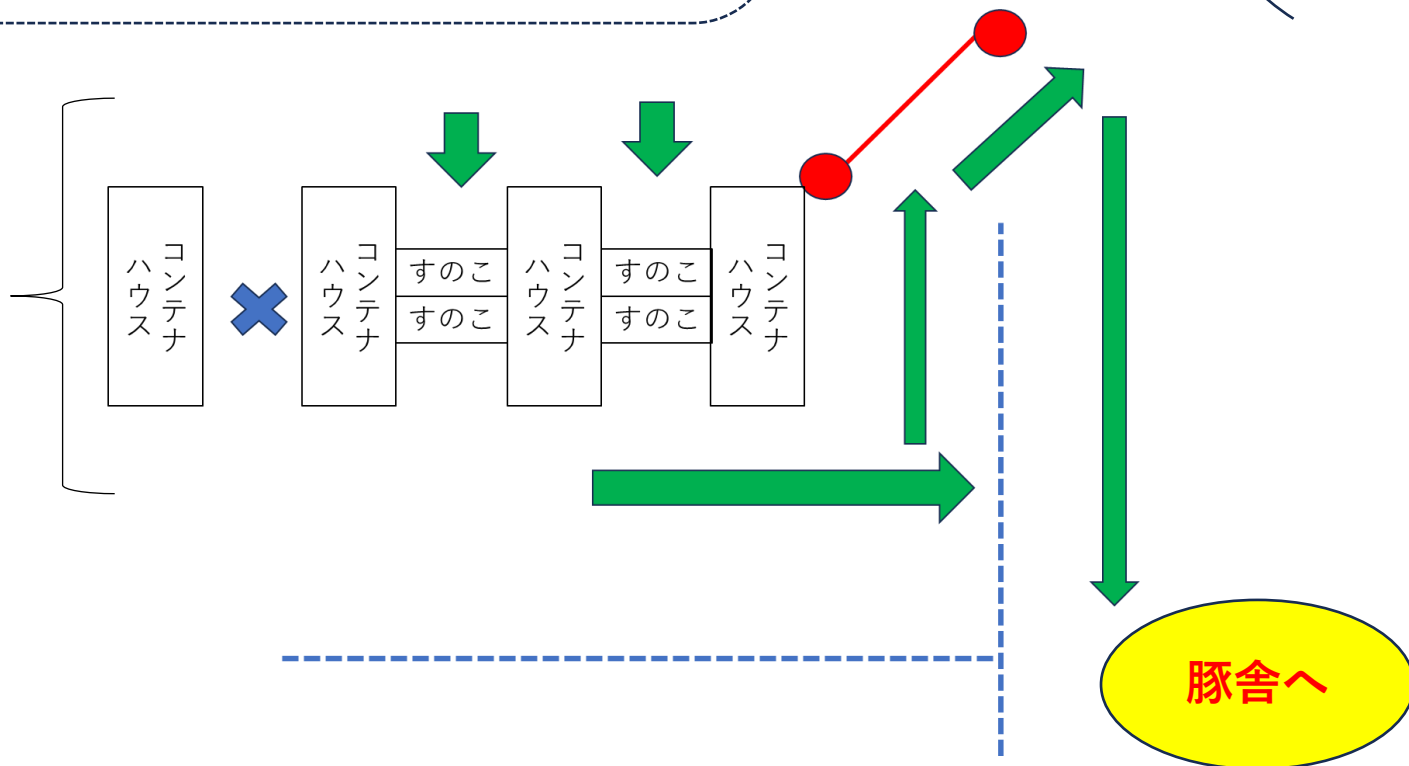
消毒した長靴の
置き場所



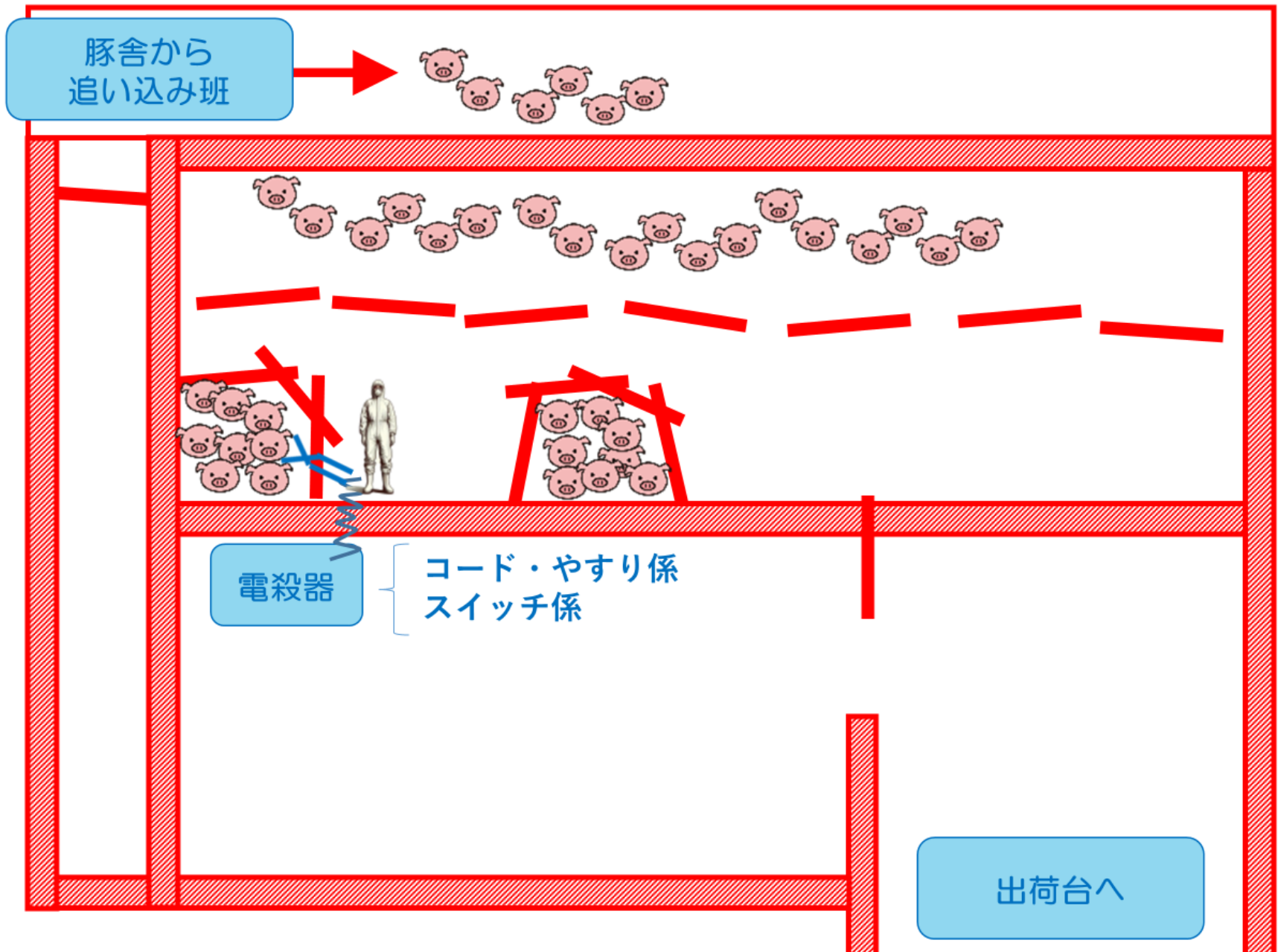
農場内防疫拠点（簡略図）



汚染エリアと清浄エリアをすのこで仕切る
入場者と退場者が交差しない



殺処分作業



ご静聴ありがとうございました